

I 実践

1 研究主題

生徒の人権感覚や人権意識を育成するための教育活動の充実と人権教育推進計画の工夫・改善

(1) 主題設定の理由

人権の基本にあるのは、一人一人の人間の尊重である。そのため、本校は「茨城県人権施策推進基本計画」に基づき、「教育活動全体を通して人権尊重の精神を養うとともに、差別や偏見をもたない児童生徒の育成」を目指している。これを踏まえ、教科や領域での教育活動全体で体験的な活動や話し合い活動を通して人権についての理解を深めることができれば、一人一人の人権尊重に対する意識を高めることができると考え、本主題を設定した。

(2) 研究のねらい

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の教育活動全体を通して、人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

2 実践内容

(1) いじめストップ！絆づくりプロジェクトの実践

ア 「いじめ撲滅スローガン・いじめ撲滅宣言」の作成
全クラスで「いじめをなくし、お互いの絆を深めるためにはどうすればよいか」について考え、話し合い活動を行った。また、スローガンは、日常生活で考えることについて学級で意見を出し合い決定した。今年度は、集会ができなかったため、学級委員が自分の学級のスローガンを放送で紹介し、学級の背面に掲示している。

イ 人権メッセージの取組

人権メッセージは、夏休みの課題として全校生徒が取り組んだ。代表的な作品を掲示した学級も見られた。道徳の学習では、導入や終末で何点かの人権メッセージを活用し、深く考えさせるよう工夫した展開を行った教員も見られた。

(2) あいさつ運動の実践

ア 毎日のあいさつ運動

生徒会役員と中央委員が、年間を通して毎日、2つの昇降口前であいさつ運動をおこなっている。運動をただ継続するだけでなく、実施するかを含め4月に話し合いを行っている。自主的に行う久慈中の伝統となっている。

イ 小学校でのあいさつ運動

11月に、生徒会役員や小学校出身生徒などが、久慈小と東小沢小に出向き、あいさつ運動を行った。このあいさつ運動を通して、地域の一員として自覚が芽生え、先輩として後輩を温かく迎えようという気持ちも高まった。

ウ PTAとの合同あいさつ運動

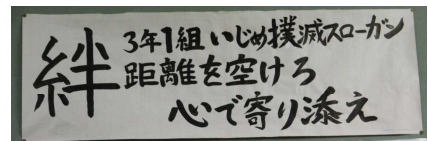
11月に保護者と合同であいさつ運動を、久慈中正門前で行った。普段の生徒の活動を見てもらう機会となった。

(3) 善行賞表彰の実践

学校生活だけでなく、地域の一員として善い行いをした生徒に善行賞を贈り表彰を行っている。表彰された生徒の写真とその行いは、職員室前の廊下に掲示し、他の生徒もよく見ることができるようになっている。この活動を通して、表彰された生徒には自信と勇気を与え、見る生徒には善行の大切さを自覚させることができるようになっている。



学級での話し合いの様子



いじめ撲滅スローガン



毎朝のあいさつ運動の様子



久慈小でのあいさつ運動の様子



善行賞の表彰の様子

(4) ボランティア活動の実践

ア 環境整備委員会の活動

委員会の常時活動ではあるが、2週間ごとに2日間、昇降口前で生徒たちが持ってくる空き缶などの回収を行っている。この活動を通して、ものを大切にすることや互いに協力することの喜びが自覚できるようになった。

イ リサイクル活動の実践

年間3回、PTAや地域を巻き込んだリサイクル活動を行っている。部活動単位で順番を決め、2時間程度の時間だが、地域の方が持ってきた新聞紙等をトラックに積み込む仕事をする中で、感謝の気持ちを育てている。



リサイクル活動の様子

(5) 学級の集団意識を高める実践

ア 学級旗作成の活動

1学期に学級旗を作成し、自分の学級のシンボルとして教室背面に掲示している。特に、体育祭では学級を応援するときに活用し、学級集団の士気を高める効果がある。学級での所属意識を高めるねらいがあり、学級全員が作成にかかわることになっていることが自己肯定感を高めることにつながっている。

イ 考える木を育てる活動

道徳の学習の一環として、各学級の側面に「考える木」を掲示している。考えを伝え合う活動を継続することで、お互いの人権意識を高める効果がある。



作成した学級旗

(6) 総合的な学習の時間の実践

1学年では、総合的な学習を「自分でできるSDGsを考えよう」というテーマで行っている。自分で17項目から1つを選び、その内容について調べ発表する学習の形をとっている。すごろくゲームの活動では、自分が調べている項目について問題をつくって出題することを通して、広い視野で自分たちの生活を考えることができた。人権に関わる内容が多いことから、生徒の人権意識の高まりにつながっている。



すごろくゲームをする様子

3 成果

- ・ いじめストップ！絆づくりプロジェクトの活動を継続することで、一人一人の個性や違いを認め、尊重したり受容したりする意識が高まってきている。さらに、いじめという行為をみんなで見過ごさない・許さない雰囲気や困ったときは声を掛け合い助け合おうという雰囲気も高められた。
- ・ 人権メッセージやいじめ撲滅宣言を教室内や廊下に掲示したことや、人権に関する道徳の学習や総合的な学習の時間を継続して実施してきたことで、生徒の言動にも変化が見られてきた。自分中心の意見を通すのではなく、相手の立場を考えた行動が日常生活や授業の中でも増えてきた。
- ・ あいさつ運動は、小中連携だけでなく、生徒会を中心とした運動も行っている。登校時に互いに言葉を交わすことで、異学年交流もできた。あいさつを通して、人とのつながりの大切さや集団の中で、相手を思いながらよりよく生きる優しさを伝えていきたい。

II 今後の課題

各教科や道徳、総合的な学習の時間、学校行事など教育活動全体を通して、人権に対しての取組を充実させ、生徒一人一人の人権感覚や人権意識を高めていきたい。そのために、継続して取り組んでいる「いじめ撲滅活動」をさらに発展させ「絆づくりプロジェクト」として生徒会を中心に、積極的に行っていきたい。